

移動市長室会議録（平成24年 2月 3日）

1 日 時：平成24年2月3日（金）、14時00分～15時15分

2 場 所：御笠コミュニティセンター 会議室

3 出席者：

『御笠振興会』

森木会長、北村副会長、綾部副会長、八尋事務局長、冷川事務局員、長谷事務局員、小川事務局員、井上事務局員、小西事務局員、安武事務局員、井上安全防犯部副部長、帆足自然環境部部長、森文化遺産部部長、粕井文化遺産部副部長、日永田地産地消部会部長、稗田地産地消部会副部長

『筑紫野市』

藤田市長、木村総務部長、北橋市民協働推進課長、横山御笠コミュニティセンター館長、榎木秘書広報課長、原田秘書広報課主任

4 内容：団体の現状と課題、要望などについての懇談

(事務局) 皆さま、こんにちは。本日は大変お忙しいなか、「御笠振興会」の皆さまには貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。ただ今から、平成23年度第6回移動市長室を始めさせていただきます。

移動市長室は、より細かく市民の声を把握し、市政に反映させようと、藤田市長自らの発案により、昨年8月から始めさせていただいているものでございます。市内の各種団体・グループの方とより深い懇談を行い、そこでの意見を市政発展に活かしていこうとするものです。また、市政をより身近に感じていただくことも目的としています。

懇談は、お手元の次第のとおり進めさせていただきます。この後、市長あいさつ、出席者の自己紹介、そして懇談の順に進めてまいります。

懇談は、御笠振興会の活動状況、現況、活動の課題、それから、今後の方向性についてお話をいただき、最後に森木会長から要望事項についてお話をいただくこととなっております。

終了時刻を概ね15時10分とさせていただきます。

本日の懇談内容は、会議録を作成し、市民に公表をさせていただきます。また、撮影した写真は、市広報紙やホームページに掲載させていただきますので、ご了解をお願いします。

有意義な懇談会となりますように、よろしく願い申し上げます。

では、まず初めに、藤田筑紫野市長が皆さまにごあいさつを申し上げます。

(市長) 皆さま、こんにちは。

御笠振興会の皆さまには、総会や、昨年末に開催された「みかさの朝市」などでお会いいたしました。その時、熱心に活動してされておられる様子を拝見し、今一度、じっくりとお話をおうかがいしたいと思っておりました。

市長に就任してから、2月1日で2年目を迎えました。昨年8月から開催している移動市長室も今回で6回目となりますが、今日は、皆さまと懇談ができる機会をいただき、嬉しく思っているところでございます。

御笠振興会の皆さまは、昭和44年に会を発足されて以来、今日まで御笠地区の発展と幸福を願われ、「住みやすい、住み続けたい地域にするための事業活動を展開する」ことを目的として、御笠地区の自然環境の保全や農業振興などの地域課題の解決に向けた特色のある事業に取り組んでおられるところでございます。この場をお借りしまして、敬意と感謝を申し上げます。

先ほど、こちらに来る途中に、下阿志岐と御笠グランド付近に設置されております「ゴミのポイ捨て禁止地区」の看板を拝見しました。この御笠の豊かな自然を守ることにについて、皆さま方の強い思いを感じたところでございます。

本日は、この後、皆さまの想いもしっかりとお聞きしながら、懇談させていただきたいと考えております。どうぞ、よろしく願い申し上げ、冒頭のあいさつとさせていただきます。

(事務局) ありがとうございます。

それでは、続きまして、参加者の自己紹介にまいります。まず、私ども行政のほうから自己紹介をさせていただきます。

まず、秘書広報課から参っております私、秘書広報課の榎木と申します。どうぞよろしく願いたします。

(事務局) 同じく、秘書広報課の原田と申します。どうぞよろしく願いたします。

(総務部長) 総務部長の木村と申します。どうぞよろしく願いたします。

(市民協働推進課長) 市民協働推進課長の北橋と申します。どうぞよろしく願いたします。

(市民協働推進課) 御笠コミュニティセンター館長の横山と申します。よろしく願いたします。

(事務局) 以上が、事務局でございます。

続きまして、御笠振興会森木会長から願いたします。

(森木会長) 今日は雪が降り、寒い中、振興会に来ていただき、本当にありがとうございます。これから活動報告をさせていただきますけども、今後ともどうぞよろしく願いたします。

では、メンバーの紹介にうつらせていただきます。

(北村副会長) 振興会の副会長をしております北村でございます。今日は会長にかわりまして、それぞれの紹介を私からさせていただきます。

横におりますのが、副会長の綾部でございます。

(綾部副会長) 綾部でございます。よろしく願いたします。

(北村副会長) それから、事務局長八尋でございます。

(会員) よろしく願いたします。

(北村副会長) 事務局員、冷川でございます。

(会員) 冷川でございます。よろしくお願いいたします。

(北村副会長) 同じく事務局員、長谷でございます。

(会員) 長谷です。よろしくお願いいたします。

(北村副会長) 自然環境部会の部会長帆足でございます。

(会員) 帆足です。よろしくお願いいたします。

(北村副会長) 文化遺産部会長の森でございます。

(会員) よろしく申し上げます。

(北村副会長) 地産地消部会長の日永田でございます。

(会員) よろしく申し上げます。

(北村副会長) 同じく、地産地消部会の副部会長の稗田でございます。

(会員) 稗田です。よろしくお願いいたします。

(北村副会長) 事務局員の小川でございます。

(会員) 小川と申します。よろしくお願いいたします。

(北村副会長) 同じく、事務局員の小西でございます。

(会員) 小西でございます。

(北村副会長) 同じく事務局員、安武でございます。

(会員) 安武です。

(北村副会長) 文化遺産の副会長の初井でございます。

(会員)) 初井です。

(北村副会長) それから、安全防犯部副会長の井上でございます。

(会員) 井上でございます。

(北村副会長) それから、事務局員の井上です。

(会員) 井上です。

(北村副会長) 以上、16人でございます。よろしくお願いいたします。

(事務局) どうもありがとうございました。

それでは、これから本題に入りたいと思います。

先ほど申しましたように、初めに御笠振興会の現況を森木会長からお話をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

(森木会長) 最初に、私から振興会の目的をお話しさせていただきます。

先ほど市長にもお話しいただきましたが、昭和44年に御笠振興会は設立されておりま

す。その時の役員は、井上隆助さんを会長に、副会長3人、監事2人、顧問として当時の筑紫野町長さんなど3人がいらっしゃって、あとは、参与が7人。

当時、御笠地区には13の行政区がありましたので、各区から3人前後、幹事や委員などに出ていただいていたと思います。

ご承知のとおり、昭和44年頃は、日本は池田所得倍増内閣の時代で、47年の田中内閣の列島改造につながる時期でございますので、高度成長の時代です。たしか、この40年代に太宰府ゴルフ場、それから、ゴルフ場団地、宮の森、それから、筑紫野カントリーもできたと思います。そういう時代に御笠振興会の活動がスタートしました。

従いまして、設立の時の発会趣意書には、恵まれたこの御笠地区の自然を守りながら、発展に取り残されないようにみんなで協力して計画を立てていこうじゃないかという趣旨が書いてあります。

規約の第2条に御笠振興会の目的を掲げておりますが、これを改めて読んでみますと、「会は新しい協調体制を確立し、御笠地区における総合的振興計画を樹立するとともに、これが開発を促進することにより地域の発展を図り、筑紫野町政の振興に寄与することを目的とする」とあり、こういう目的で会の活動がスタートしております。

総合的振興計画の最終目標はこの御笠地区住民の福祉増進であり、この振興会の基本的な考え方、精神は、今日までずっと続いております。

平成15年の総会の時に会の目的を「御笠地区を住みやすい、住み続けたい、まちづくりをめざす」に改正しましたが、これは、会の目的を変えたというより、従来の精神を引き継ぎつつ、表現の仕方を改めたというところでございます。

併せて、その時に「次世代を担う子どもたちの幸せを願うための事業展開を図る」ということも加え、御笠住民の防災と防犯の活動、御笠の豊かな自然と文化を守り育てる活動、それから、農業生産者と消費者を結ぶ活動という3つの目標を掲げて、今日までずっと活動を続けてきております。

組織については、資料に組織図を載せておりますが、現在、御笠地区には16の行政区がございますので、各行政区から3名ずつ、うち1人は区長さんに必ず出ていただくということにしております。安全防犯、自然環境、文化遺産、地産地消の4部会と、それから賛助会員ですね。毎年、各行政区から出ていただく方は1年、2年で代わることもありますので、長年にわたって会員として続けていただく方は、賛助会員になっていただいております。

現在の役員等の名簿を資料に載せておりますけども、顧問・相談役・参与が6人、それから、事務局員が7人、それから、各行政区から出てきた代表者の総勢65人で活動しているという状況でございます。

時代の流れで活動のやり方は変わってきておりますけども、基本精神は変わらずに活動しています。具体的な活動は、一番この会で長く頑張っております事務局長の八尋から説明させていただきます。

（会員） 先ほど森木会長が申されたとおり、昭和44年2月に御笠振興会の規約が作られたのですが、実際にはその前から、規約などはなかったにしても、同志によって御笠振興会というものは存在をしておったと聞いております。

その中で、やはりいろんな面から実際どういう活動をする目的の会なのかということをご住民の人から、各行政区のほうからもよく質問、それから非難いろいろございましたものですから、その辺を取りまとめまして、平成15年に「住みやすい、住み続けたい、まちづくり」を目指すとともに、次世代を担う子供たちのために事業展開を図るとして会の目的を明確にしております。

特に、初期の目的でございます100年構想について、昭和44年から100年たった後もちゃんと御笠地区としては営々と筑紫野市に貢献していくという想いがございましたし、住民の福祉増進が目的であるという精神は未だに残っております。

資料には、29項目の主だった活動を載せております。

まず、平成15年、御笠地区としてごみのポイ捨て禁止地区宣言を決議いたしております。区長会のご協力によりまして、御笠地区全住民の6割にあたる6,764名の署名をいただき、まずは形から入ろうということで、筑紫野市の地域づくり助成金も使わせていただきながら、ごみのポイ捨て禁止地区看板を3カ所に設置しました。今日、市長も見られたと思いますが、最初に宝満川の下河原橋、御笠グラウンド、柚須原、それから県議会議員時代の市長にもご協力いただいて、県道の筑紫野古賀線にも看板を設置していただいております。この看板ごとに各行政区では宝満川を守る会をはじめ、それぞれ活動が展開されているところでございます。

それから、学習会を活動の基本にしていこう、啓発をしていこうということで、平成17年7月の自然環境・文化遺産学習会において、特に冷川先生を中心に講師をしていただき、御笠の自然を考える取り組みを進めました。文化遺産学習会としては、平成17年8月に御笠地区の遺跡について筑紫野市文化振興課の奥村さんを、平成18年8月には御笠及び御笠

地区内の行政区の由来について同じく筑紫野市文化振興課の池松幸路さんを、それぞれ講師にお招きし、講演していただいています。また、平成17年7月に自然環境部会では、特に竜岩自然の家を拠点として、自然観察コースの調査をしております。

安全防犯としては、平成18年12月に吉木小学校、平成19年9月には阿志岐小学校に、安全防犯マップと防犯ホイッスルの寄贈をさせていただきました。

次に、平成19年8月、太宰府発見塾の塾長であります森弘子さんを講師にお招きし、文化遺産学習会を開催し、特に御笠の生活文化についてお話をいただいています。

次に、平成19年10月、「御笠の自然、今と昔」という自然環境・文化遺産の学習会を冷川先生にお願いをしております。

それから、平成20年には枳形城址、それから愛岳山散策ルート整備を具体的にやっております。

平成20年3月には、自然・史跡探索マップを完成させ、全世帯に配布いたしました。

それから、平成20年8月と10月に、自然環境学習会と文化遺産学習会を、冷川先生、小西さんをはじめ事務局員フル登場でこの辺はやっていただいていますし、平成21年7月の自然環境・文化遺産学習会におきましては、御笠地域の古代官道について、筑紫野市文化振興課の小鹿野さんを講師にお呼びして説明をいただいています。

その後、平成21年8月の安全防犯学習会で、「自主防災組織の設立について」ということで、県防災指導係と筑紫野市総務課の方を呼んで、自主防災組織の設立に向けた取り組みの講演をお願いしております。

平成22年2月には枳形城址看板設置を行っておりますが、これにも地域づくり助成金を使わせていただいております。

それから、平成22年7月に、自然環境文化遺産学習会ということで、国の指定を受けております謎の城、古代阿志岐城について、筑紫野市文化振興課の草場さんに学習会の講師をしていただいております。

次に平成22年8月に、安全防犯講演会ということで、「わが町を守る防犯・防災」ということで、筑紫野警察署の方と、みかさ台の自治組織であるみかさ台防災会の方を講師に学習会をしております。

平成23年1月には、枳形城址に続きまして龍ヶ城址の看板を設置しました。道がない中何とか看板を頂上まで持っていったという状況でしたが、この看板設置にも地域づくり助成金を使わせていただいております。

平成23年3月には、後ほど部会から説明がございますが、御笠地区の史跡マップが完成しまして、16の行政区公民館、それからコミュニティセンター、小学校等も併せて、全世帯に配布しております。これにつきましては、地域づくり助成金を一部活用させていただいております。

平成23年5月には、宝満山遺跡の公的保存と活用に関する請願書を提出し、議会でも採択をしていただいた状況でございます。

平成23年7月に、自然環境・文化遺産学習として、特に宝満山の国指定に関わることで、「宝満山の恵み」の映画試写会を行っております。

平成23年8月に、防災学習会として、福岡大学教授の森田講師に、御笠地区の豪雨災害についての学習会を行っております。100名程度の出席をいただいております。

平成24年1月に、これはできたてのほやほやでございますが、協働事業の一環として筑紫野市からの助成を受け、御笠北部自然観察ガイドブックが完成しまして、今後、竜岩自然の家やコミュニティセンターに常置し、各小学校、中学校にも寄贈してまいりたいという考えております。

このように、平成15年からは特に学習、講演活動、ないしは、文化遺産を守る活動を積極的に進め、目に見える活動を展開してきたというのが現状でございます。活動の詳細については、各部会から説明させていただきます。

以上です。

(事務局) では、各部会から説明をお願いいたします。

(綾部副会長) 安全防犯部の部会長もしております綾部でございます。ご報告をさせていただきます。

安全部会は、御笠地区16行政区の区長で構成している部会でございます。部会の活動目標は、振興会の目標であります住民の安全と防犯事業を担当しております。事業の活動テーマは、まず1点目は、御笠地区住民の防犯と防災に関する啓発活動、学習会ですね。こういうのを開催しております。それから、2点目は、吉木、阿志岐小学校の安全・防犯に対する取り組みの事業でございます。

まず平成21年度ですが、先ほどご説明いたしました、防犯啓発講座というのを開催いたしました。福岡県の防災課の方にも参加いただき、地域における防災活動に対する取り組み、防災組織の立ち上げをしていただくということで開催したもので、住民の方約100人が参加しました。本会に合わせて筑紫野市の防災担当の職員さんからも、筑紫野

市における防災状況というのをテーマに防災講座を開催させていただきました。

平成22年度についても、防災啓発講座を開催しました。テーマは自主防災会の活動展開についてということです。自主防災会をいち早く組織化しましたみかさ台自主防災会から、地域の防災活動についての内容を発表いただいて、地域での防災会の全体的な早期立ち上げを図りましょうという趣旨で講演をいただきました。

併せて、御笠交番駐在の巡査部長さんから、「御笠地区の発生状況と防止策について」というテーマで発表いただきました。これも約100人の住民の方々に参加をいただき、防犯・防災に対する啓発活動を中心に進めてまいりました。

平成23年度には、「御笠地区の豪雨災害について」という防災学習会で、福岡大学教授の守田講師とともに、各行政区の防災・防犯のメンバーが地域で過去に起こった豪雨災害の現場をまわりました。どのような災害が起こったかということ先生にも見ていただき、地域における実例を参考にしながら、防災について具体的なお話をいただき、住民の方々も非常に高い関心を示していました。

安全防犯部会は御笠地区の区長会が主体となっています。区長会が主体となる事業というのは、どこの地域でもあまり例がないんじゃないかと思うのですが、御笠地区では区長会が安全防犯部会に参画して、御笠振興会の事業の一翼を担っているという状況でございます。

それから、小学校に対する安全活動として、毎年、吉木小学校と阿志岐小学校を訪問し、校長先生や教頭先生に小学校での課題についてヒアリングしています。また、子どもたちの身に何かあったとき危険を知らせることができるよう、安全ホイッスルも贈呈しています。

以上が安全防犯部会としての活動の内容でございます。ありがとうございます。

(会員) 次は自然環境と文化遺産、合同で説明いたします。

(会員) 自然部会の帆足です。よろしくお願いします。

(会員) 文化遺産部会の森です。

(会員) 文化があって、自然があって、そこを探索していくということで、一緒に活動しておりますので、一緒にご報告をさせていただきたいと思います。

この御笠の自然については、資料にも載せておりますけど、僕、この写真が一番好きなんです。これですよ、御笠は。宝満から流れるこの川の美しさ。この宝満がある御笠、宝満川が流れる御笠を守っていく、そして、子供たちに残していきたいという思いで、私は

活動に参加させていただいております。

ここの自然というのは、山がたくさんあって、川が流れておりますけども、上のほうのお米、結構おいしいんですよ。だんだん下になっていくほどに味が少し落ちていくかなと。まあおいしいんですよ。おいしいけども落ちていくかなと思っております。でも、特に竜岩、柚須原の辺りは非常においしい。値段も高いんですよ。僕も小さいときから米を見て育っていますから、よく分かるんです。粒は少し細かいかな。でも、味はおいしいとです。

そういう美しい自然と水を守っていくために頑張ってきておりますけども、五十数年前から山にヒノキとか杉とかをずっと植えてきているんですよ。国からの指導とかいろいろあってですね。私は53歳になりますけども、生まれたときにおやじとおふくろがヒノキとか杉の木を植えたということで、私が小学校に入るぐらいまでは、根ざらい(木立の下に生えた雑木や竹を取りはらう作業)ということで、山に連れていかれていたんですよ。今は、誰もそういうことはない。もうイノシシの散歩道ですよ。

そこを僕たち自然部会で、遺跡を確認しながら山に草刈り機を持って行ったり、チェーンソーを持って行ったり、皆さんが散策できるように、活動できるように、日夜努力してきたところです。じゃ、すみません、遺産部会さんから。

(会員) 豊かな遺産を残していこうということで、資料の地図に載っていますが、枳形城址、それから、龍ヶ城址というのがあります。そちらを散策路にしていってらどうかということで、平成19年から活動を始められたようです。ここには竜岩自然の家がありますので、そこと連携しながら、散策コースなどのルート整備なんかをしていこうということです。

1つ例を挙げますと、平成21年には枳形城址の散策ルートを整備しています。その時は、竜岩自然の家の事業として、児童が30人、保護者や指導員が10人ほどおったと思います。そういう人たちが途中で合流するような計画になり、山頂のほうの枳形城址に着いたところで、里山の話とか、遺跡の話とか、そういうのをさせていただいて、そこで一緒に植林までして帰ってくるというようなことをしています。

この地域の中で、そういうことに触れることによって、自分たちの地域に誇りを持ち、そして、豊かに育つ子どもを育てていこうというねらいもあります。

龍ヶ城址に看板を立てたり、道しるべをしたり、枳形城の方は全長20キロくらいになりますが、みんなで手分けして看板を持って行って、穴を掘って、設置して、整備をしているところです。

その他に、地域住民の意識を持たせ、また、誇りを持たせるための学習会を開催し、この御笠地域から冷水に抜けるところに古代官道があったというというお話とか、太宰府に続く古代官道があったんじゃないかというお話を聞かせてもらい、自分たちはこんなすばらしいところにおるんだなと、参加者みんなで感心したところです。

それから阿志岐城址ですけど、全国唯一の石垣の仕組みも説明していただきました。基底石というのがあるそうです。そのような学習を自分たちでしながら、自信や誇りを持って後世につないでいきたいと考えています。

また、自然観察ガイドブックですが、これにはいろんな地域の名前とか、いわれのある遺跡の名前とか出てきます。これを正しく覚えさせるために、振り仮名をつけています。専門的なものは振り仮名をつけていませんが、対象としては、小学校の高学年あたりから理解させていこうということで、今年はしっかり取り組みました。これは、吉木小学校、阿志岐小学校、御笠コミュニティセンター、そして、筑紫野中学校に寄贈し、子どもたちの手元に置いておくことで、いつでも活用できるようにしています。

最後に、御笠地区北部の史跡・自然散策マップですが、平成20年に作ったものを元に、前は2枚だったのを1枚にまとめたものを全戸に配付しました。また、このマップは、A1のサイズのものを2か所の小さな公民館に、B1サイズのものを18か所の公民館に、その倍の模造紙の大きさになったものを小学校や中学校、コミュニティセンター、それから市にも配付していたと思います。

そういうことで、御笠地区の宣伝と、地域住民の誇りをもてるよう、こうして楽しく活動をしているところです。

以上です。

(森木会長) ありがとうございます。では、地産地消部会。

(会員) こんにちは。地産地消部会を担当してさせてもらっています日永田と申します。よろしく申し上げます。

私たち地産地消部会では、御笠の新規農産物の育成ということで、不老長寿の小果実と言われてますグミ科のオビルピー八の栽培に取り組んでいます。しかしながら、全員オビルピー八の生産に対する知識が乏しく、大変苦戦しているというのが現状であります。

そんな中、植樹から5年目の一昨年と昨年、少量でありますますが果実をつけることができました。しかし、安定した収穫にはまだ至っていない状況であります。そんな状況でありますので、森木会長からも、我々の時代に早く何とかせんと、不老長寿の役目を果たせん

ぞと言われて、今、叱咤激励を受けております。

そういう叱咤激励の言葉を糧にしまして、実際少量であります但果実をつけたということ
を心の支えとして、会員一同頑張っている状況です。よろしくお願ひします。

(会員) 同じく地産地消部会の稗田です。よろしくお願ひします。

みかさの朝市のときは、藤田市長にも来ていただきました。誠にありがとうございました。これは農業生産者と地域の住民の共感を図るために活動を行っているところでござい
ます。

竜岩と香園の基盤整備が完成いたしました、ここでとれた野菜、それから、先ほどお
いしい米と言われたお米を新米フェアとして竜岩自然の家で販売をさせていただいており
ます。

地域的にちょっと高いところでありますので難しいのですが、現在、裏作を考えている
ところでございます。新米フェアとみかさの朝市は以上でございます。

(森木会長) それでは、市民文化祭について、お願ひします。

(会員) 去年の11月12日、13日にここの市民文化祭を行いました。このうち、
私どもが担当した体験講座は11月12日の1日のみです。

御笠コミュニティ女性会の会員が110人、私ども御笠振興会会員が65人おりますが、
その中で、当日は80%ぐらいの人が出席して、体験講座を担当しております。

体験講座としては、大研修室でストーンアート、和工芸、ちぎり絵、カーニバル仮面、
子供アンビシャス広場、韓国語の6つのコーナーを設けました。それぞれ個人とか、団
体の指導者が講師としてお見えになり、大人が約100人、それから次世代を担っていく子
どもが200人ほど来場し、それぞれのコーナーで体験をされました。

それから、屋外の裏のほうの駐車場では、餅つきコーナーを設けました。ここでは、子
どもたちにも体験させてみたりしながら、約90キロのお米をつき、販売もしまして、当
日は1,030パックぐらいを販売しました。販売の利益は、女性会と私ども振興会で折
半して、活動費に充当していくと。市民を盛り上げながら、我々もまた見返りも若干出
てくるというように、活動を永続的にやっていくために、そういう取り組みをさせていただ
いています。

中身については、資料の写真を見ていただくと分かるように、このような形で皆さん一
生懸命学習をされたというようなことでございます。

以上でございます。

(会員) 続いて、映画「宝満山」について簡単に説明申し上げます。

この御笠地域の筑紫野と太宰府にまたがるこの宝満山を、地域の方々に認識してほしいと、知ってほしいという目的で、映画をつくっております。宝満山を検証し、この地域と全国の方々にこの宝満山というのを認識していただくために、私とTNCを定年退職した弟と2人で、「宝満山の映画をつくる会」というのを立ち上げました。平成22年の4月から撮影に入り、大体の取材は終えております。今から編集に入って、秋ぐらいにはもう大体でき上がる予定です。

御笠振興会の皆さんの方にも、この映画を鑑賞し、少しでも宝満山について認識していただこうと、作成途中でありましたけども、ここで上映会もいたしました。

映画は、90分くらいの長さで、DVD2枚ぐらいにして、いろいろな関係機関に配布したいと思います。今考えているのは県の教育委員会と、筑紫野と太宰府の後援をいただいて、とにかくいろんな形で公的な機関においても上映会というようなものを催していきたいと考えております。

簡単ですが、以上でございます。

(森木会長) 最後に、今、御笠地区のコミュニティ構想に御笠振興会としても積極的に参加しようと、いろいろな勉強会とか、学習会をしております。今月は、7日の火曜日にありますね。

以上で、大体活動の現況ですね。

(事務局) 各部会の本当にすばらしい取り組みをご丁寧に報告していただきまして、ありがとうございました。図面等もありまして本当に分かりやすく、理解することができました。皆さま工夫していらっしゃるって、うれしく、楽しく聞かせていただきました。

せっかくでございますので、こちらのほうから質問させていただいてもよろしいでしょうか。

最初に安全防犯部会からうかがいました災害に強いまちづくりのための取り組みについてお聞かせいただきたいと思います。その中で、例えば、災害が起きたときに高齢者を最初に助け出すとか、幼い子供たちを守っていくんだとか、そういった特に気をつけている点とか、それから、特に予想される災害、昔から繰り返し起きている災害のようなものがあれば、教えていただけますでしょうか。

(会員) まず、災害に強いまちづくりということで、地域では防災組織づくりを進めました。平成21年度までに1組織しかありませんでしたので、講演会などを通じて啓発

をして、本年度は全行政区で防災組織を立ち上げることができました。

1行政区だけでなく地域を挙げて連携した活動ができるようになり、防災活動について全地域での横のつながりが生まれたことは、非常に大きな強みになったと思っております。

今後は、地域を一本化した校区ごとでの防災活動に年間を通して取り組みを進めていきたいというふうに思っております。

それから、非常に高齢化が進んでいることもあり、先ほどご指摘があった要援護者が非常に増えていますから、その名簿づくりを今進めているところです。本年3月までに各行政区における要援護者のリストを作成し、行政区がそれをうまく活用しながら要援護者の救援とか、支援に当たるといふことの活動につなげていきたいと考えております。

そして、御笠地区で起こる災害ですが、直接現地を見て回りましたが、やはり土砂崩れとか、山崩れといった土砂災害、あるいは雨による川の氾濫というのが予想されています。これも各行政区で調査も行っておりますし、また、県や市からも、こういう防災地域の指定がございます。防災については、区長会を中心にして、毎月、区長会の後に防災会を開催するような形をとっていますから、これからも連携をとりながら、そういう予防・防災啓発活動に今後も取り組んでいきたいというように考えております。

以上でございます。

(事務局) どうもありがとうございます。よく分かりました。

もう一点よろしいでしょうか。自然環境部会と文化遺産部会から、大変すばらしい取り組みについてご説明がございました。自然観察ガイドブックを作っていただき、地元の小中学校にお配りいただいて、児童生徒の理解を図っているということでしたが、学校側、それから子供たちからの反応というのはいかがでしょう。

(会員) 実は、これができたばかりで、できたてほやほやなんですよ。

(会員) 1月の31日生まれなんです。

(会員) そうということなので、今からこれを活用して、みんなで勉強していったいと思っております。

(事務局) そうですか、わかりました。ありがとうございます。

地産地消部会からもオビルピー八とおいしいお米のPRがありました。オビルピー八が昨年あたり一定の収穫があって、今後軌道に乗せたいというお話があったんですけども、オビルピー八というのが我々にとってなかなかなじみがないもんですから、事前にインターネットで調べてまいりました。グミの一種で、非常に栄養価が高くて健康食品にもな

るということで、何かこれからの時代にぴったりの作物のようなんですが、導入に当たられた経過とか、何でオビルピー八にしたのかとか、その辺りのお話をいただけますか。

(会員) もう7年くらい前に、やはり御笠に特産品をつくらにやいかんというところで、いろいろ農産物の候補が上がったんですけど、まず出たのがブルーベリーをやるうと。それで、一定の成果があって、各組合員さんが今それを収穫してゆめ畑とかに出しているところがあるんですけど、そのブルーベリーだけでは、これはいかんばいと。

次の手ということで、このオビルピー八というものを手がけたんですけど。これが1つ大きな欠点がありまして、苗の値段が高いと。1本が2,500円、そのオスとメスが要ると。マイナスの41度からプラス41度までの地域であればできるんですけど、多品種なもので200種類から300種類もあるんですね。

原生のオビルピー八は強いんですけど、ずっと品種改良をやっているもんですから虫に弱い、鳥から食われる。もういろいろとマイナス要因がいっぱいありまして、市からも農林関係の助成金をいただいて苗代に充てたのですが、ほとんど枯れてしまいました。トータルで250本ぐらいは植えたのですが、今残っているのは50本足らずという状況でございます。早く見切りつけんかということで森木会長から言われるんですけど。

この不老長寿の研究をロシアがやっています、これが中国に漏れて、ドイツに漏れて、ここでもう一つの大生産地ができて、カナダでも大成功しています。これはオイルがとれまして、このオイル、医薬品、それからジュースなど、いろんな収穫ができるということです。今、日本では北海道の建設会社が唯一成功しておりまして、毎年4トンから5トン収穫し、生産化しています。

私は毎月一回そことデータ交換をしているんですけど、酸性土壌で、アルカリ性土壌の砂地がいい。それも南向きがいいと。まず土壌改良から始めないと、なかなか難しいというのが今分かってきておりまして、そのスペシャリストが、今、この地産地消部会にもいないし、私みたいな男がずっとこれに携わっとるものですから、その辺が今の大きな課題でございます。

今のところ、今年も植えて、また増やしていこうという気持ちでいっぱいです。

(会員) 品種が何種類かありますから、生き残る可能性はあるんですね。生き残れば、その品種をずっと植えていきたいと。

(会員) 大体十何種類か植えました。ほとんどだめになって、今のところ2種類くらい残っていますので、その2種類をまた植えるということをしています。

市長、視察に行った時には、ぜひ、グミを。

(市長) その不老長寿というところに魅力を感じますね。

(会員) ほ場整備をして裏作の問題が何もないんですよ。農業政策で上の方のほ場整備してね。地産地消ということで、ブルーベリーで一応、成功したんですね。今、何農家おったかな。

(会員) 今は4農家ぐらい。鉢植えから始めて、収穫をして。

(事務局) ぜひ軌道に乗せていただき、みかさの朝市に出していただければ、皆さん買いにくると思います。

(会員) 御笠ベリーという名前はできているんですけどね。

(事務局) 先ほど、地産地消部会からお米の直売をなさってあるというようにお聞きしました。上の方の米は小さいけれども、非常に味がおいしいといったお話がありましたけれども、実際、どのようにおいしくて、どんな苦労があるのかというのを教えていただきたいと思います。

(会員) 私たちは、同じ米を食べてもうまいとは思わないんですけど、やっぱり下の方とかに持っていたりしたら、甘くておいしいということを言われます。昨年度から、これは話していいのかわからないんですが、我々も裏作の計画をしております。これが成功すれば、やっていきたいなというふうには思っております。

(会員) おいしいのは水がきれいだから。だから、もう少し下までずっと水がきれいにもっとよみがえってくれば、ずっとおいしい米がとれるんです。

(会員) 水もきれいごと、植える人も、御笠の女の人はきれいですもんね。

(会員) 水は原料として酒屋にも出しています。

(事務局) ありがとうございました。

(市長) 冷川先生、平成4年からこの御笠の自然というで講演してありますよね。16年ぐらいずっとしてあるわけですが、どうですか、少し変化はあるんですか。

(会員) 基本的には変化がないですね。今のお米の話も含めて、土壌が花崗岩の風化土壌が中心で酸性土壌なんです。だから、オビルピー八がアルカリ性土壌でないと育たんということは、これは酸性土壌やから育たんということも考えられます。

今具体的にいろいろ提案されたけど、私は今月の29日に筑紫野市の文化振興審議会に委員として出席して、具体的に宝満山の史跡指定も含めて提案していきたいと思います。

それからもう一つ、宮地岳の阿志岐城も国の史跡に指定されているんですが、福岡県の

文化財課とか、国の文化庁がその地域の住民も含めて具体的に教育をしていかないといかんから、それは筑紫野市から提言をお願いしたいと思っているんです。

基山、阿志岐城も含めて、今度は宝満山が国指定の史跡になれば、筑紫野市は国の史跡が3つもあることになりますよね。そういう歴史的にも素晴らしいまちだから、県や国に提言して、地域の住民にそういう教育も含めてやってくださいということをお願いしたいと思います。

(事務局) 分かりました。質問させていただき本当にありがとうございました。

では、続きまして、活動の課題などにつきまして会長からよろしく願いいたします。もしよろしければ、今後の方向性なども一緒にお願いします。

(森木会長) もう一度この御笠の地図をご覧いただきたいと思います。

市長もよくご存知と思いますが、この永岡の交差点から御笠の方に入っていきますと、ちょっと進んだところに、「文化に触れる道」という看板が出ていましたね。それで、ずっと進みますと、真正面に宝満山がどんと見える。その左下にこの愛岳山なんかがあり、それから、右奥のほうに大根地、それから、真ん中辺の下に龍ヶ城址ですね。そして、左側は宮地岳。ここに囲まれて、上から川がずっと流れてきて、で、その川の横には整備された田んぼがずっとある。本当に素晴らしい地域ですね、これ。地元で余り感じなかったですけど、つくづく感じるようになりました。

それで、課題でございますけども、3つほどございます。

1つは宝満川とか、原川ですね。これは川の横がずっと歩けるようになっております。天山から大石の入り口までは川の右か左か、どちらか必ず空いている。で、原川もおかげで河川改修が終わっている。それで、この川とか、その周辺の遊歩道といいますか、散策道をもう少しきれいにしないといかん。

今、西吉木と上阿志岐西と下阿志岐で、3つのボランティア団体が自分たちの地域について活動をされているんです。これを御笠全体でやるようにして、原川、宝満川を少しきれいにしていくというのがこれからの課題だと思います。一部、藪になって通れなくなっているようなところもありますが、きれいになれば、みんな喜んで散歩できますしね。

それから、もう一つは、散策道です。この枳形城址の散策道は振興会で年に2回ぐらい整備をしていますので、十分ではありませんけど、何とか行けます。一方、龍ヶ城址の方は半分道がない。龍ヶ城というのは、この辺から登るとすれば、ちょうど手ごろでございます。木も少し切ったら、ものすごく見晴らしがいいんですよ。

ところが、試験場が側にありますもので、試験場という性格上、余り近寄ってくれるなと、足を踏み込んでくれるなと、こういうことでございます。これを何とかしなきゃいかんなど。ちょっと横の方に空き地といいますか、県の所有地がありますから、試験場ともう一度つつこんだ話を進めたいなと考えております。それが2番目でございます。

それから、課題の3番目ですが、御笠地区の何か特産物とかが欲しいということで、オビルピー八に挑戦しておるわけですが、いま一步成果が出ておりませんので、それをひとつ何とかしていかなければいかんなど。

こういう3つの課題があるんですけども、今後の方向性としましては、宝満川、原川をきれいにするというので、ごみのポイ捨てのない地域づくりを目指して皆さんで取り組みを進めております。川のあたりなんかきれいな遊歩道なんかになれば、みんなごみを捨てられなくなりますよね。きれいにしとかんと、ごみをポンポン捨てますからね。だから、今この3つの団体だけでやっとなるわけでございますが、ぜひ我々としても御笠地区全体の取り組みにして、この川の周辺をきれいにしたいなと。例えば、日にちを定期的に決めて清掃をするとか。住民参加で、みんなでひとつそういうことをやっていくようにしたいといかんと、こう思っております。

筑紫野市の下水の基幹排水が平成25年度、来年度でできるようになっているようでございますが、宮の森が来年できれば、ほとんど御笠地区は本管ができる状態になります。本管ができたら、今度は家庭からつなげなければいけませんよね。それで、このつなぐのがなかなか進んでいないようでございますので、その促進をしないといかんと。そうすれば、川の水もちょっときれいになるんじゃないかということで、その辺の運動もしたいなと思っております。

それから、散策道の問題でございますけども、先ほどからいろいろ活動も説明させていただきましたが、マップも全世帯に配りましたし、案内板もできた。自然観察ガイドブックもできた。それから、今年はその自然観察時の解説案内板を、また市と共同で4カ所設置するようになっております。この辺は大分でき上がりましたので、それを今度は活用して、住民の人みんなが実際に自分で歩いて、肌でよさを感じてもらわないとだめですからね。例えば体育振興会、それから市のスポーツ振興課あるいは健康推進課ではウォーキングなんかの企画があるようですから、他の団体と振興会と提携しながら、マップを活用していきたいと思っております。

当面そういうことをやるにしても、散策道をもうちょっと整備しなければいかんし、龍

ケ城の散策道をちょっともう一遍つっこまないといかんということでございます。ゆくゆくは、九州自然歩道などにもつながっていくようにいけば一番いいなと思っておるんです。

もう一つ、御笠地区のこの農業振興の問題で、ここは試験場もございますから、今後の特産物も含めてオビルピー八を再検証、最後の詰めの検証をして、試験場なんかとも今後やっぱり相談していかないといかんなあと思っておりますし、それから、この振興会の活動の目標の1つであります農業生産者と消費者を結ぶ活動、これをいま一步進めたいと。

昨年から御笠地区の食と農を考えるというプロジェクトを立ち上げておまして、そのプロジェクトでこの問題を進めていきたいと思っておりますが、まず手始めに、朝市をしたわけですが、手軽に販売できて、新鮮なものが買えるというスローガンで、今後大なり小なりこの朝市を定期的にやるように計画していきたいと思っております。

この御笠の食と農プロジェクトで、今月も早速会議をやるようになっていますが、御笠地区も休耕地が結構あります。この辺の活用をひとつみんなで検討していこうと、こういうふうに考えております。

簡単でございますが、このような方向性を考えております。

(事務局) どうもありがとうございます。森木会長から今後の課題と方向性ということで、3点にわたりましてお話をさせていただきました。

宝満川と原川の自然環境等の保全、2つの遺跡を中心とした散策道の整備、それから、御笠地区の農業振興の推進ということでお話をいただいております。大変素晴らしい取り組みでございまして、ぜひ今後成果が上がることを期待しております。

特に、ガイドブックなどが小中学校にも配られまして、子供たちから質問とか、ゲストティーチャーとして呼ばれるような形につながれば良いですし、そしてまた、映画の製作にも取り組まれるということでございますので、完成しましたらぜひ拝見させていただきたいと考えておるところでございます。

それでは、ちょうど当初のお約束の時間となったようでございます。最後に、森木会長から要望があるということですので、よろしく申し上げます。

(森木会長) 昨年、宝満山の国の指定について、市にもお願いして、今取り組んでいると思うんですけども、是非それを今後ともよろしくお願いしたいと思っております。それ1つだけです。申し上げます。

(市長) この宝満山の件は、昨年の総会に出席した時に、冷川先生と小西さんから宝

満山について非常に詳しい説明を受けております。御笠地区の振興会としてこれを取り上げるので、太宰府市さんとも協力し合って、国に指定になるように努力してくれということで、昨年の6月議会では、尾野市議会議員さんが紹介議員となり、市議会に請願がออกมาして、市議会も満場一致で可決し、宝満山の国指定について筑紫野市も取り組みを進めていこうということになったわけでございます。

この件では、文部省の方が太宰府に来られて、宝満山を視察なされたのですが、その時に筑紫野市と太宰府の両市長、副市長、それから所管課も出てきて、話をさせていただく機会がありました。

今後の取り組みについては、何と言いましても太宰府さんとの連携が必要不可欠となりますので、具体的な今後の予定は、はっきりとは分かりませんが、まず、第一段階として、竈門神社の社有地の国指定を目指し、両市で頑張っていきたいと、こういう思いがしているところでございます。

それから、散策路について森木会長からお話がありましたが、原川、宝満川沿いに遊歩道をつくって、地域の皆さま方の健康促進あるいは友好、融和の広がりといいたいでしょうか、それにつなげていきたいということですが、筑紫野市も「ちょっと10分ウォーキング」という事業を行うなど、ウォーキングの人口を増やそうという取り組みを勧めております。このウォーキング事業については、今年の市政施行40周年記念事業の中にも含まれています。

今日は、天山区長の井上さんがお出でですが、あの地域の河川にも遊歩道をつくって欲しいという陳情もなされているところでございますので、ぜひこの原川、宝満川のこの散策ということには、今後も検討を加えていきたいと思っております。

それから、ほかにも食と農というようなお話もございました。朝市というのを地域で、御笠振興会でぜひ続けていただきたいと思います。

まだ他にも御笠振興会としての色々なお話もございましたけれども、本当に長時間にわたって御笠地区のまちづくりへの皆さま方の熱い思い、そして、実際に行動してあるその姿をお聞きし、あるいは、見せていただきました。

この御笠地区が宝満山を初めとする山々に抱かれまして、山紫水明の地、宝満川を支流とする清らかな水に恵まれたその地域を、この御笠地区として豊かな自然を守り、史跡を保存し、あるいは、農業の振興、地産地消の推進など、非常な努力をなされている姿を見せていただきまして、今日の6回目の移動市長室は、非常に有意義な懇談ができたと思

感謝をするところでございます。

今後とも市政全般にわたりまして、今までと同様にご理解とご協力をいただくようお願い申し上げます。特に、今年は市制40周年ということで4月22日に式典を行います。また、式典以外にも多くの冠記念事業を実施するほか、長崎街道開通400周年などの事業もございまして、この1年間を通して筑紫野市を盛り上げていくための事業を大いに推進していくこととなりますので、御笠振興会の皆さま方のご協力を心からお願い申し上げます、お礼の言葉とさせていただきます。

今日は本当にありがとうございました。